

医薬品安全管理教育セミナー2015 春季

(日本語社会人教育プログラム)

・ ハイリスク医薬品の有害作用と危機管理 ・

事前配布資料



期 間: 2015年5月9日(土)~10日(日)午前

会 場:

東京大学法文1号館25番講堂
〒177-0033 東京都文京区本郷7-3-1

主 催: 国際医療リスクマネジメント学会

後援: 日本医療安全学会

担当事務局

国際医療リスクマネジメント学会本部

〒113-0033 東京都文京区本郷4-7-12-102

(電子メール) head.office01@iarmm.org

(Tel/Fax) 03-3817-6770

(参加者への注意)

受付開始 5月9日午前9時
5月10日午前9時

テキストならびに領収書は2015年5月9日朝の会場受付でお渡しします。

受講修了証は2015年5月10日午前12時以降に会場受付でお渡しします。

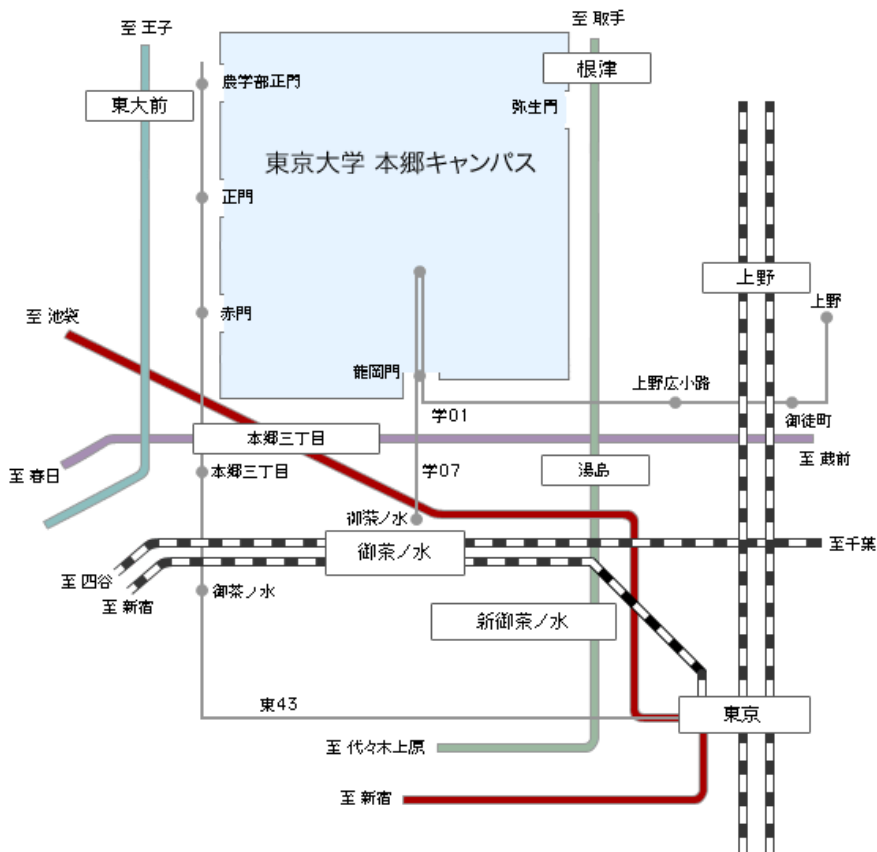
多数の参加者に対する教育プログラムのため、カメラ撮影・ビデオ撮影は他の参加者の迷惑になりますので遠慮ください。

受講対象者: 学会員(国際医療リスクマネジメント学会ならびに日本医療安全学会)、医薬品安全管理者、薬剤師、医師、助産師、看護師、医薬品製造・輸入・販売業者、その他

知的財産権所有者: 国際医療リスクマネジメント学会

本プログラムの資料は、参加費を徴収しない院内研修会の場合のみ、使用を許可します。

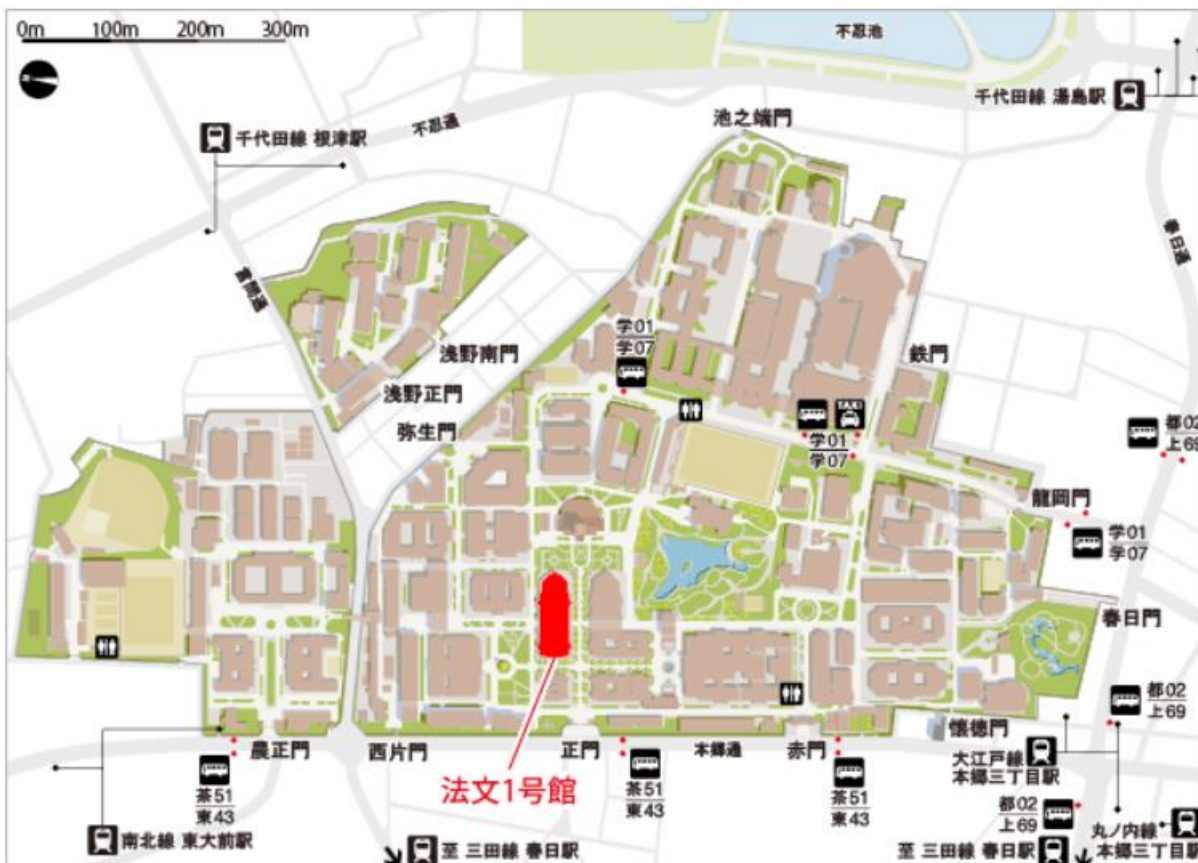
交通案内



最寄り駅		所要時間
本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)		徒歩 8 分
本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線)		徒歩 6 分
湯島駅又は根津駅(地下鉄千代田線)		徒歩 8 分
東大前駅(地下鉄南北線)		徒歩 1 分
春日駅(地下鉄三田線)		徒歩 10 分
御茶ノ水駅 (JR 中央線、総武線)	地下鉄利用	丸の内線(池袋行) — 本郷三丁目駅下車
	地下鉄利用	千代田線(取手方面行) — 湯島駅又は根津駅下車
	都バス利用	茶 51 駒込駅南口又は東 43 荒川土手操車所前行 東大(赤門前、正門前、農学部前バス停)下車
	学バス利用	学 07 東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車
御徒町駅 (JR 山手線等)	都バス利用	都 02 大塚駅前又は上 69 小滝橋車庫前行 — 本郷三丁目駅下車
		都 02 大塚駅前又は上 69 小滝橋車庫前行 — 湯島四丁目下車
上野駅 (JR 山手線等)	学バス利用	学 01 東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車

会場案内

TEL 03-3812-2111(代表)



飲食について

講演会場内での飲食は一切禁止されています。

飲食店は下記をお勧めします。

- 東大安田講堂地下食堂

- 東大正門~本郷三丁目交差点付近に多数の飲食店があります。

プログラム

第1日目 2015年5月9日(土)午前10時から午後4時

東京大学法文1号館25番講堂

受付開始 午前9時

午前10時 開演

午前10時～午前10時50分 (官庁講演) **医薬品副作用被害救済制度について**

加藤 直人 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構健康被害救済部調査第一課長)

(概要) 本機構は厚生労働省直轄の団体です。厚生労働省および本機構における被害者救済制度が取りまとめて説明されます。

午前10時50分～午前11時 休憩

午前11時～午前12時 (臨床医学講義 1) **胎児期での薬物投与の有害作用と注意点**

永松 健 (東京大学医学部附属病院産科婦人科学教室)

--- 東大病院産科婦人科学教授の推薦講師

(概要) 胎児は薬物感受性がきわめて高く、しばしば重篤な有害作用を引き起こす。その概要を臨床医学の立場から講義する。

午前12時～午後1時 昼食

午後1時～午後1時50分 (臨床医学講義 2)

新生児/小児へのハイリスク薬の有害作用と注意点

高橋 尚人 (東京大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター准教授 (新生児科))

(概要) 新生児ならびに小児では成人と異なる医薬品に対する高度なリスク管理が必要である。それらに関する医学知見の概要を臨床医学の立場から講義する。

午後1時50分～午後2時 休憩

午後2時～午後4時 (パネルディスカッション 1)

「ハイリスク薬の院内ガバナンスの現状と課題」

オルガニザー: 島崎 信夫 (国際親善総合病院薬剤部)

一人 20分

パネリスト: 本多 秀俊 (東大病院薬剤部リスクマネージャー)
鈴木 優司 (東海大学医学部附属大磯病院 薬剤科科長)
縄田 修一 (昭和大学横浜市北部病院 薬剤部・病院薬剤学講座)
喜古 康博 (藤沢市民病院 薬局長)
島崎 信夫 (国際親善総合病院薬剤部)

総合討論

(概要) ハイリスク薬使用に関する薬剤師とその使用者(医師、看護師)の連携ミスは死亡事故などの甚大な有害作用を国内外で引き起こしている。この臨床ガバナンスはしばしば困難を極めることが少なくない。そこで、これを上手に進められた事例を幾つか報告いただき、その情報共有を行う。

1日目 閉会

第2日目 2015年5月10日(日)午前9時30分～12時

東京大学法文1号館25番講堂

入場開始: 午前9時

午前9時30分～午前10時20分 (臨床医学講義 3) **抗癌剤による有害作用の概要**

篠崎 英司 (がん研有明病院消化器内科)

(概要) 抗がん剤には幾つかの重篤な有害作用を有する。それらを重点的に臨床研究している立場から解説する。

午前10時20分～午前10時30分 休憩

午前10時30分～午前11時10分 (薬剤講演)

地域医療連携の中で薬物療法の質と安全をシームレスに担保するには

橋田 亨 (神戸市立医療センター中央市民病院 院長補佐・薬剤部長)

午前11時10分～午前12時 (パネルディスカッション 2)

「電子お薬手帳を活用した服薬の安全管理」

座長: 橋田 亨

1 川崎市薬剤師会による先進的 IT サービスの取り組み

一般財団法人川崎市薬剤師会会長 嶋 元

2 ソニーの電子お薬手帳 harmo の取り組み

ソニー株式会社 harmo 事業室室長 渡邊 普

総合討論

午前12時 全体閉会